

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 5 号 (5 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区総体及びその後の県リーグ報告

5 月 14 日 (土) 15 日 (日) 県総体の前哨戦の地区総体が山形市スポーツセンター (落合) で行われました。山東はその前の村山地区リーグ (M リーグ) にて県総体の切符を得ることができたため、県総体のシード校 4 校 (山形中央・東海大山形・山形城北・山形商業¹⁾) と、M リーグ各ブロック 1 位の 3 校 (山形東・山形南・山形明正) とともに、プライドのみをかけた決勝トーナメントを戦いました。**山東の 1 回戦の相手は、東海大山形**。ここ数年ずっと、県内で最大の部員数 (90 名程度) を誇り、一昨年の高校サッカー選手権にも出場した強豪校。たくさんの部員を抱えながら、部としての一体感もあるのがすごい²。山東もよく練習試合で育ててもらっている。前部報でも書きましたが、山東はここまで県リーグ (Y リーグ)・M リーグでまずまずの成績・内容を収めてきたが、**今シーズン初めての格上相手 (Y1 所属) にどこまでやれるか、今後を占う大会**となりました。選手には、「負けるにしても、昨年の地区新人山商戦のように、まったく何もできず、粘れもせず負けるとなると、県総体で好成績を残すのは難しいだろう」と思っていることを正直に述べ、大会の重要性を伝えておりました。

5 月 14 日 (土) 東海大山形戦。非常に暑い中、**保護者・山東応援団千ア**等たくさんの応援を頂く。**田村教頭先生**もベンチ後方から！応援して下さい。いつもながら、**清野総監督** (山東サッカー部後援会名誉会長)、**後藤報道局長**、そして最近皆出席の**工藤先輩**もお越し下さる。せりかわ整骨院からは**志田トレーナー**がいらっしゃって下さった。さあ、万全の態勢。**試合が始まると、やはり東海ペース。1 対 1 のマッチアップで山東後手を踏んでいる**。もちろん 1 対 1 の弱さを集団の力でカバーすればよいのだが、1 対 1 の強さはチーム力に直結する。本当に強いチームの選手が 1 対 1 に弱いことはあり得ない。ということで、山東の選手、まだまだ。山東の選手も、特に DF が、昨年と異なりボールを (無暗矢鱈に跳ね返さず) 収めるべきところは収めているが、**東海の DF の確かな技術・冷静な判断力に裏付けされた丁寧な配球**とのレベルの差を感じる。さすが Y1 のチーム。しかし、**山東も何とか粘ってはいる**。この「何とか粘っている」という状態が大切で、昨年はその粘りが全くなかった。**山東サッカー部の伝統的なコンセプトは「スキルの差をスコアの差にしない粘り強いサッカー」**であるとまとめているが³、この粘りある戦いが何とかできている。昨年から観戦し

¹ 日大山形もシード校ですが、プリンスリーグ東北と日程が重なったため、地区総体は不参加となりました。

² 顧問のお二方に、「90 名もいると名前覚えられなかったり、『こんな部員いたっけ』などと分からなくなったり、現部員に対して勘違いして『大学どうだ?』などと頓珍漢な事を訊いたり、しませんか?」と尋ねても (私だったらしそうなので)、「それはさすがにない」とのこと。さすがです!

³ こればかり言うと、諸先輩から、「**そんなくそ粘りだけが山東サッカーじゃないぞ**」と苦言呈されそうなので、**「フィジカルの差をクレバーさで凌駕するサッカー」**というフレーズも付け加えておきます。このフレーズは決して諸先輩向けのリップサービスではなく、山東サッカー部の伝統の一側面を示して

続けている方は、山東の成長ぶりがわかっていただけるかと思います。内容的には良く見ても 4 対 6 の戦いでしたが、完全に崩されたというシーンを多く作られた訳でなく、ゴール前も手厚く守ったので、相手シュートが体に当たったり、近いところでシュートを打たせなかったり、打たれるにしても体を寄せていたりといった形で、何とか守り切った。攻撃では、**3年FWユート**が主将らしい働きぶりでチームを牽引し、時折鋭いカウンターを見せた。結局試合はスコアレスでPK合戦へ。**2年GKハレル**はボールに触れもしませんでした。相手シュート一本がゴールマウスをとらえられず、それでもって山東はかなり危ないシュートもありましたが、何とか全員がネットを揺らし、**PK合戦にて山東の勝利**。先発の相手GKが山東選手との衝突で負傷退場してしまったことが、東海にとっては響いたのでしょうか。山東としては申し訳ないPK合戦勝利となりました。とはいえ、地区総体で二日目に臨めるのは、正直うれしかったです（負けると1日で終了）。

翌日は、山形明正を2対0で退けた**Y1所属の山形城北**。城北はここまでY1で勝ち星を重ねることができず苦しいシーズン冒頭を過ごしていますが、「**ワタナベ再生工場**」という異名がある**W監督**率いるチームですから、ここから調子を上げてくるに違いない。少し前は、中学時代に無名の選手を使いながら高校でトップクラスの成績を上げることから「**コスパNo.1**のチーム」と呼ばれたこともありましたが（呼んでいたのは私だけですが）、最近選手獲得でも力を発揮しつつある。**菅間校長先生直々の応援**の下キックオフ。試合が始まると、山東の攻撃に勢いを感じる。相手のW監督が盛んに「下がり過ぎだ」とDFに叫んでいる。ということは、山東の攻撃が相手DFを下げさせることに成功しているということ（相手DFを下げさせれば、DFとMFの間隔が空くので、間を取りやすい）。前半城北の攻撃でヒヤッとするシーンもありましたが、いずれも「良いミドルシュート打たれてたらヤバかった」という類。要するに、深くは攻め込ませなかったということ。**前半は山東のゲーム**と言える。しかし、決定的シーンを複数回作ったのかと言えば、首を傾げる。**何となく押しているだけ**だった。このように攻勢に出ている時にしっかりと決定機を作る、そして決定機をものにする力がなきゃダメ。前半両チームスコアレス。後半は、徐々に城北のワイドな攻撃にアウトサイドをえぐられるシーンが多くなる。**後半の前半は城北のゲーム**。そんな流れの中、この試合たびたび耐えていたが結局相手ロングスローからの攻撃に対して守備の対応を誤り、失点してしまう。というか、**そもそも山東、深い位置で簡単に相手にスローインを与え過ぎている。相手から寄せられていても、体を入れつつ、もっと前方にクリアする必要**がある⁴。さあ、山東、点を取り返さなきゃ次はない。ボランチのサンペーをFWに上げる。すると、Y2Bで好タッグを組んだユート&サンペーのFWコンビを中心に、山東の攻撃の時間が多くなる。**結局ユート⇒サンペー⇒ワントラップボレーシュート⇒ゴールという流れで同点にし、逆転の雰囲気もありましたがそのまま試合終了**となり、結局2試合連続でPK合戦へ。試合終了直前、城北はGKを交代させる。PKに強いGKの投入か。対して山東、前日PK合戦に勝利しているものの、ハレルがPKを止める気配は全く感じられなかった。とくれば、ここは昔取った杵柄、**3年GKクロサカ**の出番か。実際地区総体前日の

います。

⁴ そうすれば、うまくいけば、クリアが相手に当たり、山東のスローインになる可能性がある。もちろん、相手に当たったボールが相手に渡り、もっと苦しい状況に追い込まれるリスクもありますが、**良いDFならそもそも深い位置で簡単に相手にスローインを与えません**。この試合、とある選手に、「簡単にボールをつついてスローイン与えるな」と指示した次のプレーで、その選手が簡単にタッチライン外の真横にボールを出すのを見て、啞然としました。一般論としても、簡単に深い位置でスローインを与えてはいけなし、**相手にロングスローのあるこの試合では、特にその工夫が必要**でした。

PK 練習ではクロサカの方が PK を止める可能性を感じた（ハレルがしているのはセービングではなくジャンピングでした）。よし、山東も行こう。ということで、クロサカ投入。PK 合戦前、選手がベンチ前に集まりキッカーの順番を訊きに来たので、順番を伝えつつこう言いました。「この PK 合戦は勝つだろう。なぜなら、我々にはクロサカがいるからだ〜。」こう言うと、選手は盛り上がる盛り上がる。**3年FWフミキが得点しても同様の盛り上がりがあるのですが、クロサカも同じ意味で（どういう意味？）愛されている**ということ。私、PK 合戦前のこの寛いだ雰囲気を見て「この PK 合戦、勝ったな」と本当に思いました。しかし、監督のこの勝手な確信は全く当てにならず。**結局この PK 合戦、山東の選手一人が外してしまい、負け**。ここに勝つと、県新人優勝の山形中央と地区総体決勝を戦えただけに、とても残念に思いましたが、「怪我人も多くなってきたし、1日2試合しなくて良かった」と前向きにとらえることにしました。同日午後に行われた村山地区総体決勝は、ボールポゼッションでは山形中央が圧倒するものの決め手に欠き、城北は堅守からの速攻で試合を盛り上げ、スコアレスで PK 合戦へ突入。山形中央の GK が噂通りの実力を発揮し、結局山形中央の優勝で終わりました。

そして、翌週5月21日（土）は、Y2Bで東海大山形Bとの対戦。**東海は、Aで負けたチームに対してBで仕返しのできる厚い選手層を誇る**⁵。AとBの力が拮抗していないと、こういうことはできない。山東では絶対にできない芸当。前の週、PK合戦ではあったがAが山東に敗れているので、Bはかなり気合入って来るだろうな、と覚悟して試合に臨みました。**この試合、白鷹町とちょっと離れたところで行われたのですが、多数の保護者と、清野総監督、後藤報道局長そして工藤先輩がお越しになっている。いつもいつもありがとうございます！** 山東はDFに故障者が多く、地区総体にMFやFWで出場した選手をDFにコンバートして試合に臨む。試合が始まると、入り決して良くない。うまいチームじゃ決していないだから、「ボールが足に付かない」試合の入りは陣取り合戦、ボールを大きくフィールドしようと呼びかけてきましたが、ショートパスを引っ掛け、攻め込まれる展開。東海は素早いパスワークを見せ、山東のアプローチを翻弄。しかし、そんな良くない展開の中、東海DFとGKの間に蹴られたかなりアバウトなボールを、**サンペー**が前に出てきた相手GKより一足早くヘディングし、先制。その後、CKから**カズマ**がニアでダイビングヘッドで合わせ追加点。このヘディング、「**足はおもちゃなんだから、お前の利き足は頭だと思え**」と**厳しい言葉でヘディングの意識を植え付けてきたカズマの得点**ただだけに、余計にうれしく感じられる。そして、そのカズマからのセンターリングを**ユート**が詰め、3点目ゲット。前半20分ちょっとで3対0とする。これはかなり助かる展開。CBワタコーが怪我で欠場、もう一人のCBシュンも故障でなるべく出場させたくなかったが「ワタコー欠場なのでお前は出る」と無理やり出させただけに、このスコアになりすぐさまシュンを交代させられる。結局前半3対0、後半は疑惑のCKのボールが混戦の中東海ゴールに吸い込まれ、1点追加し、**合計4対0で勝利**。山東、大量得点で勝つには勝ったが、中盤（ミドルサード）で遅れてアプローチし東海Bにボールポゼッションを許す時間が長く、内容面で決して次につながるものではなかった。「収穫は勝ち点3を得たことだけ」といった試合。が、サンペーやユートをCBにコンバートし、そこそこ守ることができたし、**CBでフル出場した2年タイセーの卒ない仕事ぶりは評価に値しました**。また、「**一発持っている**」途中出場の**3年ユータロー**は、惜しいシュートを放ち、ピッチに出場の痕跡を残しました。**1年漫才師タカヒラ**は、途中出場途中交代という出場機会の中、正直「Jの下部組織出身なのに、下手だな〜

⁵ 実際、昨年県新人で敗れた米沢工業に対して、今年のY2Bで東海Bが仕返ししています。

(そして倒れすぎだな〜)」とベンチで身悶えせざるを得ないプレーぶりでしたが、**ゴリゴリとゴールに迫る力強さ**は持っており、決して評価は下がらなかった(そもそもそんなに高くはなかったので大丈夫ということ)。

2週に渡り、応援ありがとうございました。**いよいよ、今週末から県総体です**。この代の山東のクライマックス。初戦の相手はY2Bで強さを見せつけられた米工。一戦必勝。二回戦以降のことは考えず、初戦にのみ集中して頑張ります。アウェイとなりますが、応援よろしくお願い致します。

5月28日(土) 県総体一回戦 VS 米沢工業 13:30~ @米沢工業 G
それに勝つと

5月29日(日) 同二回戦 VS 鶴岡東 11:00~ @同 G